

地域のしくみづくり検討・検証委員会 第4回会議記録

○日 時 平成23年8月26日(金) 15時00分～17時20分

○場 所 市役所5階市民サロン

○出席委員

委員長	日高 昭夫	副委員長	関谷 昇
委員	長江 曜子	委員	松川 正
委員	平川 茂光	委員	恩田 忠治
委員	岩橋 秀高	委員	榎本 孝芳
委員	河野 静雄	委員	町山 賢一
			欠席 2名

○傍聴者 12名

○事務局

市民担当部長	小沢 邦昭	市民担当部審議監	小菅 恒夫
地域振興課長	鈴木三津代	協働推進課長	佐藤 亮一
地域振興課	関 聡	地域振興課	山内 将

○議 題

- (1) 地域のしくみづくり検討報告・中間報告書の策定について
- (2) 中間答申後の対応について
- (3) その他

※配付資料 中間報告書(案)

○ 会議経過及び概要

1 開 会

(事務局)

地域のしくみづくり検討・検証委員会、第4回会議を開始する。

委員会には委員の過半数が出席しており、成立している。(設置要綱第5条)

(委員長)

委員長の挨拶

- ・本日の会議では、これまでの会議や自主勉強会での検討を踏まえ、中間答申をとりまとめる段取りになっている。色々な角度からご議論いただきたい。

(事務局)

- ・本日、12名の方から傍聴の希望がある。入場の許可についてお願いしたい。

(委員長)

- ・傍聴者12名の入場を承認してよろしいか。(委員了承)
- ・入場を許可する。

2 議 題

(委員長)

- ・議題(1)地域のしくみづくり検討報告・中間報告書の策定について、事務局の資料説明を求める。

(事務局)

- ・ 中間報告書（案）について、以下の項目に沿って説明する。
 - I 地域の仕組みづくりを推進する意義と視点
 - II 松戸版地域の仕組みづくり
 - III 今後のスケジュール
 - IV 仕組みの試行と地域自治の進化に向けて

(委員長)

- ・ 中間報告書の全体の組み立て（案）について事務局から説明があった。私の方で、Iの「地域の仕組みづくりを推進する意義と視点」について、これまでの議論を踏まえて整理したので、説明させていただく。
- ・ 松戸市の「すぐやる課」は、当時の日本の自治体行政からすると、革命的な行政を打ち出していった1つの象徴だったと思っている。
- ・ 現在は、住民本意の行政が根付いていると思われるが、内外の情勢が変わり、財政状況も厳しくなっている現在、様々な課題に対し、みんなの知恵を結集して、課題解決を図る住民主体の行政を実現していくことが必要である。そのためには、分権的な仕組みを具体化していくことが改革の重要なポイントとなる。
- ・ 既存のコミュニティに軸足を置いて、様々な変化を加えた、新たなコミュニティづくりが政策的な課題だと捉えている。
- ・ 住民が主体的に関わりをもてるコミュニティづくりが必要である。
- ・ 地域の仕組みづくりを進めるための方向性を5つの視点で整理した。
 - 第1の視点 長期的な将来ビジョンを見据えた自治体内分権の実現の視点
 - 第2の視点 松戸の歴史と実情にマッチしつつ新しいチャレンジをめざす伝統と刷新の融合の視点
 - 第3の視点 「多元的な討議の場」づくりにふさわしい活発な議論と合意形成の視点
 - 第4の視点 長期ビジョンを段階的、弾力的に実現する実行可能性の視点
 - 第5の視点 評価見直しによる制度改善の視点

(委員長)

- ・ 各委員さんにも、中間報告書について意見をいただければと思います。

(委員)

- ・ 市政協力委員は、一番市民に寄り添っている立場である。この仕組み自体は理解できるが、丁寧にやっていくことが必要である。これまで地域を支えてきた市政協力委員や町会長などの苦勞を否定されるような誤解を生んではならない。各方面に丁寧に説明していく必要がある。

(委員長)

- ・ 現在、町会・自治会の研究に力をいれているが、その根底には、私自身が地元で町会活動や自ら役員を経験したことがある。それらの経験からいくつかの課題が見えてきて、これらを何とかしたい、どのように対応すべきかなどがベースになっている。

- ・今の時代、これまでのやり方のままでよいのか。大震災などで活躍した NPO やボランティアのエネルギーと上手く連携することで、さらに良い地域づくりができるのではないかと。

(委員)

- ・地域協議会には期待している。現在、地域の問題を話し合う市政懇談会があり、ある程度の課題は解決できるが、解決に至らない事例も多くある。そのような問題を地域協議会や交流サロンの中で、解決できることを期待している。また、各団体も活動する上での問題も抱えている。このような問題についても地域の仕組みで解決できるようになることを期待している。

(委員)

- ・自治会は確かに頑張っていると思うが、新たな仕組みができれば個人でも地域に参加できる可能性が広がる。自治会だけで解決できないこともあると思う。これまで地域に関心がなかったが、多様なテーマでの話し合いがサロンで行われるようになれば、新たな住民の参加が得られる可能性も広がる。長期ビジョンをどのように段階的に実現していくのが重要である。地域の意見を取り入れて、本市の実情にあった仕組みを構築できればと考えている。

(委員)

- ・長い歴史の中で培ったものを否定されるとか、後回しにされることは気をつけたいとならない。町会長や市政協力委員は、これまでも大変な努力をしてくれている。これを上手に繋げ、より良いものにしていくことが重要だと考える。

(委員長)

- ・むしろ町会・自治会が中心となって動かないと、事実上、コミュニティの機能は上手くいかないと思う。より町会・自治会の重要性が増すものと考えている。

(委員長)

- ・今回の提案は、コミュニティを重要視した行政に変えていくということだと理解しているし、現場に一番近い行政を実現していくための提案だと考える。

(委員)

- ・松戸市の現状として、ボランティアは多いと思われるかもしれないが、実際は熱心な方が1人でいくつも掛け持ちしてやっている現状がある。だから、人材育成は非常に重要である。
- ・市政協力委員や町会長が、この仕組みのリーダーになるのだとすれば、市がバックアップする体制をしっかりと築いていくことが必要である。

(委員長)

- ・市がバックアップする体制は必要である。地域担当制など職員の支援体制、また、地域でもコーディネートのできる人材を育成するなどが必要になる。

(委員)

- ・ 仕組みの趣旨をみると、旧来の組織や制度を否定する内容にはなっていない。
- ・ この仕組みでは、委員の選出や運営において、民主制と透明性がいかに確保されるのか、これがポイントになると考える。

(委員)

- ・ 現状、地域には人材がいないので、町会長さんは大変だと思う。今までのことが否定されるのではなく、発展的に考えられたらと思う。地域の人にわかりやすく説明していくことが必要である。

(委員)

- ・ 私は、このような場づくりは、可能性を開いていくことだと考えている。現状では、職員も地域住民も地域のことを知らなさすぎる。そのような中で、支えあいができるのだろうか、色々なことを知る場、尊重し合い、補完しあうことのできる場が必要だと思う。そのような場を如何に築いていくのかが求められている。
- ・ 行政も地域という視点で考えていくことが必要である。現在は、地域という視点が非常に弱いと考える。
- ・ 制度やシステムの導入は両面性がある。運用如何によっては違ったものになってしまう。運用のプロセスや運用の仕方について、どれだけ議論を重ねていけるのかが今後重要である。

(委員長)

- ・ 今回の中間報告書では、地域の仕組みづくりの検討報告、(仮称)地域コミュニティ推進プロジェクトの提案という冠名が付けられているが、この名称について、委員の皆さんはいかがですか。(委員了承)

(委員長)

- ・ IVの仕組みの試行と地域自治の進化に向けてですが、来年度からの仕組みの試行に向け、実施できるところから進めていくこと、定着化を図る制度化の方法として、協働のまちづくりとのすり合わせや、自治基本条例との関連や連携を含めて、多角的な議論を展開していくことなどを書き込んでいくことについてはいかがですか。(委員了承)

(委員)

- ・ 試行の仕方については、どこかでモデルを決めて普及させていくやり方の方がよいのではないかと。
- ・ 地域自治という言葉について分かりやすい解説をつけていただきたい。

(委員長)

- ・ 松戸市の場合には地域性もあるので、どこかの地域をモデルとして取り組んだ成果を他の地域が活用することは難しいと考える。どちらかといえば、地域の多様性を受け入れ、取り組んだ成果を地域ごとに改善につなげてもらう方が全体に定着

しやすいと考えている。

(委員)

- ・地区検討会議の構成メンバーにおいて、防災に関する団体が入っていないが。
- ・防犯が入っていて、防災が入っていないのは違和感がある。

(委員長)

- ・委員の皆さんからも色々と意見が出たが、これらの意見を踏まえた最終的な手直しについては、委員長および副委員長に一任していただくということによろしいか。(委員了承)

(事務局)

- ・地区検討会議のメンバー構成(案)について説明する。
- ・中間答申後の対応、今後のスケジュールについて説明する。

次回、第5回会議は、12月19日(月)午後3時から
第6回会議は、1月16日(火)午後3時からを予定する。

3 閉 会